

# 「コミュニケーションへの挑戦」

G16

板倉 尚道

## 目次

- 1 Y君の紹介
- 1-2 出会い
- 1-3 仲良くなるに連れて知ったこと
- 1-4 魅力を感じるどころ
- 1-5 印象的なエピソード
- 2 ディスカッションの時の質問
- 3 なぜ彼にインタビューしたいか
- 4 インタビュー結果
- 5 インタビューの結果から思ったこと
- 6 結論
- 7 「日本事情Ⅱ」を振り返って

### 1-1 インタビューしたい人

僕がインタビューしてみたい人はY君です。

### 1-2 彼との出会い

彼は寮の友人です。

彼とは4月に寮を通じて知り合いました。

### 1-3 第一印象と仲良くなるに連れて知ったこと

最初は普通に大学にいそうな感じの若者だなというイメージしかわかなかったけど、仲を深めるにつれて自分の考えをちゃんと持っている人ということを知りました。中学時代に生徒会長をやっていたそうでその時鍛えられたそうです。それと「どうしても」と言われると断れない人柄ということも知りました。

### 1-4 彼の魅力を感じるどころ

僕が彼に魅力を感じているところは、「豊かな発想力」を持っているということです。何か話していると、自分たちが想像もしていなかったようなことを言って周りをなごませてくれ、相談に乗ってもらっている時も「そういう考え方もあるんだな。」と関心させられます。

### 1-5 印象的なエピソード

彼について初めておもしろいなと思ったことを紹介したいと思います。寮では新入生は自己紹介カードというものを作って掲示するという習慣があります。僕も作って掲示しまし

た。他の人はどんなことを書いたのだろうと思って見ていて好きなものの所にはいろいろありましたが、一つだけ「ペンギン」とありました。その「ペンギン」を見た時僕はこれを書いた人はおもしろい人だなと思いました。「好きな動物は？」と聞かれ「ペンギン」と答えるのは普通だと思いますが好きなものが「ペンギン」と書ける発想に僕は関心し興味を持ちました。のちのちペンギンについて聞いてみたら本当に好きで詳しくかったです。そしてものすごく楽しそうに話していました。

恋の相談に乗るのも好きらしく、寮の友人3人ぐらい(僕、Y君、寮の友人)でよく温泉に行き、湯船につかりくだらないことを長々としゃべっています。ある日、いつものように湯船で、恋のことで悩んでいてそのことについて話しているとY君はとても真剣に聞いてくれ、なにかしらアドバイスをくれ、気づくと4時間経っていました。4時間も人の相談に乗ってくれる彼はとてもいいやつだなとこのとき実感しました。

## 2 ディスカッションの時の質問。

ディスカッションのときY君についての質問でこんなものがありました。

・「Y君は「ちびまるこちゃんのY君」みたいに胃が弱いですか？」

僕が今まで仲良くしてきた経験上、予想ですが胃は弱くはないと思います。

ご飯も普通に食べてますし、何か嫌なことがあったりするときもお腹が痛くなったりするのはみたことないです。でも本当のところどうなのかは聞いてみたいと思います。

・「なぜY君はペンギンが好きなんですか？」

これは僕にはまったくわかりません。予想では「かわいいから」とかしか浮かびませんが、Y君にはもっと彼らしい理由があるかもしれません。これも聞いてみたいと思います。

このような質問があり、自分自身もY君のことをまだまだ知らないなと気づきました。

## 3 なぜ彼にインタビューしたいか？

彼にはいろいろな魅力があり、僕にとってとても興味深くインタビューを通じて彼のいつもと違った一面を見てみたいということからと今回のディスカッションでた質問で彼について知らないことがまだまだあったのに気がついたので彼にインタビューをしてみたいと思いました。

## 4 インタビュー

12月11日(木)AM3:00 場所;寮

インタビュー

まずY君に自分の書いたテーマメモを読んでもらった。

・「このテーマメモを読んだ感想は？」

とてもいいと思う。読んでみて少し恥ずかしいなと思ったけど板倉がこういう風に思ってくれてるのはとてもうれしい。俺のことをちゃんとみてるなあと思った。特に「自分たちが想像もしていなかったことを言ってなごませてくれる」というところが特にうれしい。自分は普通なことよりちょっと変なことのほうが好きだからそういう風に思ってくれてるとうれしい。それと人を楽しませることも好きなのでなおさらうれしい。

・「このテーマメモを読んでみてちょっと違うなと思う部分はある？」

「どうしてもといわれると断れない性格」の部分で確かにそうだけど内心実は断りたいところもある。

感想の中に気になったことがあったので聞いてみた。

・「普通なことより変なことの方が好きってどういうこと？」

やっぱり人を楽しませるにはへんなことを言うのが一番！！

「いつごろから自分って変だなって気づいた？」

高校に入ってからかな。中学時代は生徒会長をやっていたからマジメにならざるをえなかったけど高校に入ってから一気にリミッターが外れて小3ぐらいの精神年齢になってしまった。そこから自分ってへんだなと思い始めたかな。

「そんな自分をどう思う？」

変だけどそんな自分も好き。

一話は変わり、好きなものの話題へー

「ペンギンのどんな所が好きなの？」

まず、歩き方がかわいい。あのちょこちょこした感じがなんとも言えない。

それに鳥なのに飛べないけど水の中では唯一飛べる動物ということ、そして親の愛情、父が寒い中で立って卵を温め続けて母はえさを探して何千キロも旅をして子どものために帰ってくる。そんなペンギンの習性を知って、そのおかげで親の大切さに気づかせてくれたそんなペンギンが好きです。

「いつからペンギンを好きになった？」

高2の終わりぐらいかな。最初は歩き方がペンギンに似てるっていわれたことから興味を持って、可愛いなどは思ったんだけど詳しくなろうとは思っていなかった。けど大学に入ってから、ふとペンギン図鑑を買ってみてみたらはまってしまい、そこから少し勉強して詳しくなり自信を持ってペンギンを好きだといえるようになった。

「それじゃあ将来はペンギンに関する職業につきたいと思う？」

いや。それはないな。僕はあくまでも第三者としてペンギンを見守っていたい。なんかペンギンの飼育員とかになるとやっぱりペンギンの死とかを看取らなければならなくなりそういうのはいやだからというもあるし僕の使命はたくさんの人にペンギンを知ってもらうことだと思っているから。ペンギンに関する職にはつきたくないと思ってる。

(ここでY君と自分の違いを思った、自分は好きなことを職にできるなら叶わないかもしれないが少しはやってみたいと思うが、そういう考えもあるんだなと感じた。)

「ペンギンから学んだことはなにかある？」

やっぱり親の愛情だよな。ペンギンのおかげで親の大切さに気づけた気がする。ここまでこれたのも親があっただけからこそ、女手ひとつでここまで育ててくれた感謝の気持ちを学んだね。

「今でも母には感謝してる？」

それはもちろん。母あってからこそ自分だからね。大学に入る前までは二人暮らしだったからとても心配している。多分寂しがってると思う。

「Yは寂しくないの？」

俺はそこまで寂しくは感じてないね。寂しがり屋だけど寮があるから。いつも近くには友達がいるから全然平気。でも一人暮らしだったら確実にホームシックになっていたと思う。

「寮に入って良かったと思う？」

良かったと思う。多少厳しい面はあったけど今は友達もたくさんできて、先輩とも仲良くできている。昔の過去問などをくれたりして本当にお世話になっている。人のつながりの大切さを知ることができた。

—「人のつながりの大切さ」という言葉が気になったので彼の思っている「人」について聞いてみた。—

「Yにとって人ってどんなもの？」

決して失ってはいけないものだと思う。今の自分っていうのは色々な人から良いこと悪いことを吸収して成り立っている気がする。だからまわりに人がいなくなったら自分っていうのはここまでこれなかったし、自分が今生きていられるのは、今まで人との出会いがあって経験ができていられるからこそであり、もし人がいなくなったらと考えると怖くなる。それと人って

おもしろいものだと思う。世の中に同じ人はいないしみんな違っていて、悪い部分も良い部分も個性だと思う。

(Y君のこの「人」についての意見を聞いてみて自分もそんな考え方をしている感じがして共感できた。)

「それはつまりYにとって人生は経験ってことかな？」

その通りだね。

「でもやっぱりこの人からは学びたくないな。って言う人はいるでしょ？」

確かにいたね。例えば、勝手に物を借りるとか小さな礼儀ができないってのはダメだと思う。せめて「これかりるよ。」ということは言ってほしいなと思う。あと空気読めないやつもダメだね。それとイジメをするやつとか。多少は仕方ないと思うがせめて口だけとか、手はだしたらいけないと思う。

「じゃあ自分では空気は読める方だとは思うの？」

わかんないけど読んでるつもり。でもあえて読まないこともこれが豊かな発想力を持ってるとって思われている要因じゃないかな。でもいつもそれじゃあいけないからわきまえる時はわきまえるようにしてる。

(空気をあえて読まないってこいつはすごいなと思った。今までのおもしろいことの数々は天然なのか？計算なのか？と感じた。)

「じゃあ自分はイジメはしたことないの？」

昔してしまったことはあるが途中で罪悪感をかんじるようになりいけないことだなと気づいてイジメはいけないことだとわかったので止めた。

一話は変わり最近にことについて一

「最近ストレスを感じることは？」

特にないな。充実してるから。でも自分の思いどおりにならなかった時にはストレスたまるね。

「最近ハマっていることは？」

歯磨きがおもしろい。どう磨くときれいに磨けるか考えると楽しい。

歯磨き粉は使わない。使うと邪道だ！

要するに考えることは楽しいということです。

あと最近役者ってすごいと思います。役者が悪い役を演じれば世の中はその人を悪い人だと思い込む。それって役者は人の気持ちをいのままにできるってこと

だから役者の力ってすごいって最近しみじみ思う。

(あいかわらず何が楽しいのかよく自分にはわからない。と感じたが、役者のことについてはなるほどと思った。)

「最後に Y 君は胃が弱いですか？」

全然普通だよ。でもお酒には弱いです。

以上インタビュー結果

## 5 インタビュー結果から思ったこと

インタビューを通して、インタビューしてみたい理由の点から考えてみると、今回のインタビューはなんとなく予想通りのインタビューになったと思います。彼の質問に対する答えは僕の意表をつく答えはなく僕の中に持っていた Y 君のイメージと同じだった気がします。インタビューをしているときは、いままでの Y 君と違った一面を見れたと思っていたけど、あとから見直してみるとやっぱりこれはいつもの Y 君じゃないかなと思いました。そもそも Y 君の違った一面ってなんなのかなと、考えてみるとそもそもそんな一面はないんじゃないのかなと思いました。自分のインタビューのやり方が下手だったのかもしれませんが、今回のインタビューを通して思ったことは Y 君にはいつもと違った一面はなく、こういういつも話している環境とは違ったあらたまった環境で話してみても Y 君はいつもの Y 君にかわりはない。つまり Y 君は周りの環境に左右されず自分を出せる人間なのではないかなと思いました。あと、インタビューを通してある程度同じような考えをもっている部分もあるんだなと思いました。Y 君の質問に対する答えを聞いていて「自分もそう思うな」という部分が多々あり、新しい発見をすることができました。インタビューを通して再認識できたこともあり、やっぱり「豊かな発想力」を持ったやつだなと再認識することができました。

## 6、結論

今回 Y 君について考えたり、インタビューした中で彼の魅力をあらためて考えてみると僕にはない魅力を持っている気がします。例えば、予想外なことを言って周りを和ませることができる、周りの環境に左右されず自分をだせるなど僕にはない要素が彼にはあります。自分としてはそんな魅力を持っている Y 君に憧れを抱くことが多々あります。その「憧れ」が彼を魅力的に感じる最大の理由ではないかなと思います。もう一つの理由としては前文の理由の中にも含まれるかもしれませんが、彼には自分には理解できない所があり、例えば歯磨きが楽しいなど。その理解できないことを少しでも理解したいと思うことが彼に魅力を感じる部分だとも思いました。

## 7、「日本事情Ⅱ」を振り返って

この授業を通して、今まであまり考えたことがない「人」について考えてみて最初は照れくさくあまり気が進みませんでした。授業の回数が進んでいく内に照れくささもだいぶなくなり、なかなか面白いなと思えたので、この授業をとって良かったと思いました。

# 私のお兄さん

グループ 16 康懐元

## 目次

1. どうして康家豪 <small>こうかこう</small> さんにインタビューしたいか？	1
1-1 私にお兄さんのイメージ	1
1-2 一生懸命なお兄さん	2
1-3 久しぶりなお兄さん	2
1-4 お兄さんと私のエピソード	2
2. インタビューで話したこと	2
3. インタビューの結果わかったこと	4
4. 「日本事情II」について	4

### 1. どうして康家豪こうかこうさんにインタビューしたいか？

康家豪は私のお兄さんです。兄は長男です、今 26 歳です。私は兄と年齢相違するのが 4 歳です。家族の中で私は末っ子です。私はお姉さん一人がいます。姉さんは私より一歳大きいです。今は SOHO 族です。(「SOHO 族」, Small Office Home Office, 自分の家で働くということです。)

大学から、私たちは自分の学校の近くに住んでいました。週末、家に帰るとき、会いました。兄の授業はいつも忙しかったですから、あまり一緒にチャットしませんでした。実は、兄さんの個性は了解するかどうか、わかりません。

#### 1-1 私にお兄さんのイメージ

子供のとき、よくお兄さんと喧嘩しました。私はいつも負けました。私はお母さんと泣いて話して、「兄は私をいじめた」と言いました。それで、兄はお母さんにしかられました。そのとき私は勝ちと思いました。お兄さんは絶対私と話さないと思いました。翌朝、私たちも一緒に学校へ行きました。学校の途中のうちに、なかなかおりました。今考えると、お兄さんは優しい人と思います。でも、彼は本当に怒ると、誰にもより怖いと思う。

### 1-2 一生懸命なお兄さん

兄は農業について専攻しています。去年、大学院から卒業しました。彼の学校が台湾には一番いい大学です。本当にすごいです。彼の生活はつまらなそうです。中学から、いい高校に入るために一生懸命勉強しました。第一希望の学校に入りぬくことができました。高校もこのように生活するのです。そうして、予備校へ行きました。大学院のとき、卒業論文のために毎日は学校の図書館へ行きました。とても大変でした。将来、だいたい公務員になると思います。さもなければ、お父さんの会社で手伝うかもしれません。(父は漢方薬の商売です。)

### 1-3 久しぶりなお兄さん

卒業した後で、すぐニカラグアへ従軍に行きました。ニカラグアは中アメリカに位置します。(台湾で、18歳の男性は従軍へ行かなければなりません。たぶん一年ぐらい。でも、学校に入ることができるなら、まず学校へ行きます。学校を出てから、従軍へ行きます。毎月政府に給料をもらいますが、多くないです。仕事は軍人の人、給料はとても高いです。行かない人もあります。例えば過ぎて太る人、心臓病。女性が行きたいなら、必ず試験を通過します。)この兵役は外交官に属します。専門は農業の人が多くないので、今度の機会があります。兄さんにとって、特別な経験です。ニカラグアはスペイン語を話しています。出発する二ヶ月前に、スペイン語を始めて勉強しました。彼の仕事はニカラグア人に苗を植えて教えてあげました。今年の10月台湾に帰りました。でも、私は9月のとき、秋田へ来ました。私は兄と2年ぐらい会うことができません。今は大学院時代の教授の助手です。それはアルバイトだから、正式の仕事を探します。

### 1-4 お兄さんと私のエピソード

私は赤ちゃんのとき、ベビーウォーカーに乗っていて、階段で落ちました。台湾では、古いアパートの階段は長くて険しいです。私はそんな階段で2階から、1階まで落ちました。怪我をしませんでしたが、私の体は悪くなりました。よく深夜のとき、熱があつて、病院へ行きました。父母も困りました。

何年前ぐらい、家族と一緒にチャットしていた、その事はもう一度話しました。お兄さんは「その事件は私の誤りです」と言いました。彼は外に帰った、ドアを閉めることを忘れちゃった。そのとき、私はまだ一歳でした、何が危ないはわからなかったです。だから、ベビーウォーカーと一緒に落ちました。お母さんは恐れて怒ったので、ずっと教えませんでした。

## 2. インタビューで話したこと

■時間：2008/12/06 夜11時

■場所：テレビ電話 (Skype)

■インタビューについて：

私：兄さん、久しぶりです。

兄：今秋田の天気どうですか。

私：もう雪が降りました。暖房で窓から見る、雪はきれいだと思います。でも、出掛ければ、雪はぜんぜんかわくかないです。とても寒いです。毎日だいたい5℃ぐらい。

兄：大変です。

私：あなたは台湾に帰る前に、秋田を出発しました。あなたはもう二ヶ月ぐらい台湾に帰りましたね。実は、私は最近レポートがあるから、ちょっと質問が聞きたいです。今時間がありますか。

兄：ええ...あることあるけど...。でも、どうしてあなたのレポート私は助けなければならないのですか。

私：まあ、文句を言わないてください。(ケチ...)

### ① 最近、何をしていますか。

兄：今は大学院の教授の助手です。先生は忙しいとき、学生は質問があれば、私に聞いてもいいです。今月、公務員の受験がありますから、最近試験のために準備します。母は私に「公務員になりなさい」と言いました。私は公務員はいい仕事だと思いますけど、興味がありません。(公務員の給料は高くて休日も多いです。)ちょっと困っています。将来、私は研究者になりたいです。でも、博士の学位を持ったほうがいいです。博士学位なら、何年くらいかかります。

私：ええ、この間電話するとき、母は私に教えました。彼女は怒ったそうです。母は「兄はあまり試験を準備しません」と言いました。母は私にそのことを文句しました。

### ② ニカラグアでは、何が特に面白かったですか。

兄：ニカラグアはいやに暑い国です。四季の平均気温は25度ぐらいです。その国家はあまり豊かではありません。でも、皆さんはとても熱心で親切です。台湾に帰る前に、私は同僚と一緒にカリビアン(Caribbean)へ行きました。ジョニー・デップ (Johnny Deep) 知っているでしょう。彼主演の映画「パイレーツ・オブ・カリビアン (Pirates Of The Caribbean)」はカリビアンで構図を決めました。あそこの砂浜はとてもきれいだった。海も素敵だった。同僚と一緒にダイブへ行きました。海面の下に、魚を見ることができました。いろいろな魚は私の身近に泳ぎました。カリビアンは素晴らしいバケーションのところへ行きます。次回チャンスがあれば、もう一度行ってもいいです。

私：そのとき、ぜひ私に連れて行ってくださいね。

### ③ 何時からジャズに興味を持っていますか。

兄：大学院のとき、研究するために、毎日実験室にいました。ストレスが大きかったです。そのとき、ジャズをよく聞きました。ストレスをやっつけるいい方法です。私もバドミントンを選びました。でも、運動した後で、疲れました。だから、ジャズサークルに入りました。サークルでサクソフォーンを習いました。とても面白かったです。その前、私は全然楽器を弾くことができませんでした。今少しできました。でも、今私のサクソフォーン

は上手じゃないと思います。

私：私もそう思いますよ。あなたはいつも同じ歌を吹きます。あなたは時々日曜日の朝サクソフオーンを吹きました。私はあなたに騒いで起こされました。うるさかったです。

兄：...今ね、私の部屋に金魚鉢を置いていますよ。小さい魚を飼います。

私：ええ？あなたはいつも犬が欲しいじゃないでしょう。どうして今魚を飼いますか。

兄：今も犬が欲しいですが、母は反対しました。母はペットが嫌いです。彼女はペットが汚くてうるさいと思います。魚は音を出すことができません。静かな動物です。

私：(笑う) かわいそう。

④ いろいろな国へ行きたいですね。どこが一番行きたいですか。どうして。

兄：今ドミニカ ( Dominican Republic ) へ行きたいです。違う中アメリカの文化を体験したいですから。

⑤ 自分はどんな人だと思いますか。

兄：うん、私は思いやり、頑張り屋さん、根気がある人と思います。

⑥ 最後、何が話したいですか。

兄：今日本の生活に慣れていませんか。自分の安全に注意します。どこへ行くにかかわらず、友達と一緒にいきます。よく日本人と話します。このような台湾に帰るとき、日本語は上手になります。今後家族と一緒に日本に旅行してもいいです。がんばってください。

私：はい、はい。分かりました。今度質問があれば、電話をします。今日はどうも。

### 3. インタビューの結果わかったこと

今回インタビューの前に、私たちは認識が足りないと思います。でも、兄は私が予想の性格はだいたい同じです。彼は実験を作るのは面白いですから、研究者になりたいです。結論を出て、その成就の感じがいいです。彼は公務員になったら、生活はつまらなくなります。楽しくないです。自分が好きな仕事をしたほうがいいと思います。私には対し、お兄さんはいい模範です。いつも一生懸命勉強します。私とお姉さんを世話します。優しい人だと思います。

### 4. このクラスについて

板倉さん、久保田さんと千葉さんは私が日本に来た、初めて日本人友達になりました。うれしかったです。彼らは親切です。みんな一緒にチャットするのはとても楽しかったです。先生は何を言ったがわからないとき、久保田さんと千葉さんはもう一度私に話しました。私もいろいろ面白い言葉を習いました。初め板倉さんに会った、彼は恥ずかしい人だと思います。今たくさん話すことができるわよ。日本人と一緒にチャットする、たくさん台湾と違う文化を知ることができます。楽しかったけど、最終レポートは大変だと思います。みんなは台湾に対して興味を持ちそうです。台湾へ来れば、私は案内してあげます。

## 私の知っている李さん

目次：

1. 李さんの紹介
  - 1-1 インタビュー相手
  - 1-2 出会い
  - 1-3 李さんの欠点
  - 1-4 魅力を感じるどころ
  - 1-5 エピソード
2. インタビュー内容
3. インタビューの結果からわかったこと
4. 結論
5. 「日本事情」を振り返って

### 1. 李さんの紹介

#### 1-1 インタビュー相手：

私がインタビューしたい人は李柏諺です。李柏諺は高校時代からずっと仲が良かった友達で、台湾にいます。私は今日本にいますが、よく彼と連絡をとっています。李さんは背が低いので、周りの人に永遠の 168 と呼ばれていました。でも最近は奇跡的に 2 センチ伸びて、永遠の 170 になりました。

私たちの家はとても近いから、よく彼の家遊びに行っています。李さんの家族もいつも親切にしてくれて、とてもありがたいです。彼の趣味はプログラミングやギターを引くことなどです。将来はきっとソフトウェアのデザイナーになるでしょう。とても面白い人で、いつも私のノリつつこみをしてってくれています。

#### 1-2 出会い：

張文杰

李さんと知り合ったのは、高校一年生の時です。うちのクラスには、50人の学生がいましたが、そのうち、男子は10人しかいませんでした。人数が少なかったので、私たちはすぐ仲良くなりました。李さんとはよく学校の活動に参加していて、チアリーダーのときも同じ組でした。演劇のときも同じシーンを演じていて、とても楽しかったです。経済的な理由で、彼は三回も引越しをしました。でも、毎回彼の家に遊びに行っても、うちのアレンジはぜんぜん貧乏に見えなかったです。さすが生活を楽しんでいる彼だなと思いました。李さんが最後引越した家は、ちょうど私の家のすぐ近くだったので、卒業後違う大学に入ったとはいえ、いまでもよく連絡をしています。

### 1-3 李さんの欠点：

李さんはゲームに夢中しやすいので、いつも遅く寝ています。そのせいか、彼は抵抗力が弱く、よく風邪を引きます。なので、彼のうちに遊びに行く度、いつも彼のお母さんに「李を説得してくれない」と頼まれていました。親の言葉を聞かないのは彼の欠点だと思います。

### 1-4 魅力を感じる場所：

なぜ李さんとそんなに仲良くなったかという、彼は3C (Computer、Communication、Consumer Electronics) の達人と自称していて、テレビゲームのファンだったからです。日本に「馬が合う」という諺がありますが、私も3Cとテレビゲームに興味があったので、仲良くなったと思います。また、彼はパソコンに非常に詳しいので、新しいパソコンを買いたいときには、いつも李さんに頼んでいます。土日のときは、よく彼の家にテレビゲームをしに行ったり、ビデオを見に行ったりしています。

李さんと仲良しになったのはもうひとつの理由があります。彼の温かい家族が好きだったからです。高校のとき、彼は学校の近くに住んでいて、彼のお母さんはとても情熱のある人で、いつも学校においしいものなどを持ってきてくれていました。また、クラスの全員が焼肉パーティーをやった日、李さんのお母さんが李さんを迎えに来ました。「李の友達の張さんですね、こんばんは」と李さんのお母さんに話しかけられて、とてもうれしかったです。ある人間関係に関する本の中には、「まず、人の名前を覚えること」ということが書いてありましたが、私はそれを実感しました。親切なお母さんだったので、李さんの家族とも仲良しになりました。日本に来て、知り合った人の名前を早く覚えるように心掛けています。

一緒に青春時代を歩み、一緒に成長した彼と、将来社会人になっても、ずっと仲良しでいたいです。

1-5 エピソード：

高校を通っていたある日、授業が終わったとき、私はバイクに乗って、李さんを乗らせて、一緒にうちに帰っていた途中で路地から急に車がやってきました。私は不注意で転んで、腕に怪我をして、痛かったです。でも、あのときに李さんはまだ免許がとっていなかったもので、乗ってもらうわけにはいかなかったです。怪我の痛みを我慢して帰るしかなかったです。

2. インタビュー内容

場 所：各自のうち（MSNメッセージャーでの会話）

時 間：12月11日、夜八時

どの状況で：相手がオンラインゲームをやっている時

インタビューの内容：

① 将来は何の仕事をしたい？

李：そうですね、ずっと複合カフェのオーナーになりたいものです。本屋やネットカフェ組み合わせて、軽い音楽を流して本が読めるし、パソコンもできるし。そういう雰囲気が気に入っています。

台湾のテレビによると、最近「複合式」といった店が増える傾向があるそうですね。本屋さんの中に喫茶店が設立されて、お客さんは本を読みながら、コーヒーを飲みます。ペットショップの中にもレストランが設立されているそうです。飼い主はペットと一緒に食事することができます。種類がいろいろあります。変わった店は人々に注意を引くことができると思います。だから私も自分の複合カフェが持てばいいなと思います。

② だからコーヒーショップでバイトしているわけですか？

李：あ…そういうわけじゃないんです。ただ、バイトを探すのは面倒くさいから、そして、ある友達がちょうどコーヒーショップでバイトしているから。

③ バイトしていた時、何か印象に残ったことがありますか？

李：ええ、ありますよ。あるとき、バイトしていた時、日本人のお客さんがいました。お客さんがモカシャーベットの頼みました。そして、お客さんがシャーベットを持って行ってから、私は砂糖を入れ忘れたのを思い出して、お客さんに追いかけて、「どうやって日本語で説明するかわからない」と思ってあなたに電話しましたでしょう。

私：ああ、思い出しました。でも、私もできなかったでしょう？それで、どうしました？

李：追いかけないことにしたんです。

私：そ、そうだったんですか。

李：あ…もうひとつの印象に残ったことがあります。私がバイトしているところは101ビルにありますから、ここはたまに有名人が見られます。あるとき、タレントの天心がキャットウォークしに来ました。キャットウォークが行われるところはバイト先に近いから、バイトをしながら、綺麗なタレントが見られるなんて、幸せなものです。彼女はコーヒーを買いに来なかったけど、彼女の助手は代わりに買いに来ました。うれしかったです。(表情が見えないけど、きっと、あの時、李さんがニヤニヤしていました)

④ 確か…李さんの趣味はギターを引くことですね。で、それはいつからですか？

李：そうですね。小学校の頃からです。あの時、マクロス7というアニメがやっていました。マクロス7の中に、実際存在していないバンドがあります。でも、主演のボーカルは実際に存在している人なんです。あの人がJAM Projectの福山芳樹です。あの人は歌が上手で、感動しました。そのアニメを見たら、ギターに興味を持つようになりました。それに、ガイドさんをやっている親戚が友たちからもらったギターをいらないと言って私にくれました。あのときから、毎日ギターを弾いていました。でも、小学生の私、ぜんぜん弾けませんから、中学校の頃、一度やめることにしました。そしてまた高校生になったら弾くようになりました。今でも時々自分の曲を書いて弾いていますよ。

⑤ どんなゲームがよくやりますか？

李：そうですね、挑戦性があるゲームや頭脳を使うゲームなどです。たとえば、作戦が必要「スーパーロボット大戦」とか、なぞだらけの「バイオハザード」です。エイジ オブ エンパイアもよくやります。時々君に負けるけど、楽しんでます。オンラインゲームなら、メープルストーリーやWOWも時々やっています。

⑥ どんな女の子がタイプですか？

李：はい、やさしくて、人の心がよくわかって、そして独立できる女の子が好きです。ほかの条件は別にかまいません。そうですね、彼女募集中と伝えてくれませんか。(笑)

⑦ 私と高校時代に印象に残ったことがありますか？

李：ええ、確か、あれは高校三年生のときのことと思います。あの時、大学入

学試験のために、毎週学校は模擬試験を行っていますね。ある日の昼休みのとき、私たちはこっそり隣の開いていた教室に行って、チェスを遊び始めたんですよ。そして、先生に見られて、ずいぶん怒られたんですよ。

私：あ、思い出しました。すごく怒られたんですよ。でも、チェスが没収されなくて、よかったですね。懐かしいな、高校生の頃。

⑧ 俺様はどんな人と思っているか聞かせてくれませんか？

李：おバカ、がき、助からない人、お宅、変態。かわいい女の子を見つけたら、電話番号を聞く勇気と写真を撮る勇気もない。バイトも探さなくて、ずっと家にいる。

張：そ、そうですか…素直でありがとうね。

李：でも、元気な男の人ですよ。

張：喜ぶべきか…

⑨ じゃ、私は今まで話したことを全部まとめましたが、よかったら読んで、感想をください。

李：いいですよ…そうですね。読めるか！！全部日本語で…蹴っ飛ばす！！

### 3. インタビューの結果からわかったこと

李さんは子供のごろから、ずっとお母さんと二人暮らしでしてきましたから、子供のころ、かなり心強い人です。それに非常に親孝行をする人です。近況のことを聞くと、今頃は台湾の新年で、李さんは家族にお年玉をもらうことをやめて、逆に自分から家族にお年玉をあげることをはじめたそうです。それを聞いたら、今までもずっとお年玉をもらっている僕は、恥ずかしくて、穴があったら入りたいほどです。

### 4. 結論

将来もずっと李さんと親友でいたいです。一緒に遊ぶだけではなくて、何か悩むことがあったら相談しあうこともできる友達になりたいです。

### 5. 「日本事情」を振り返って

この授業を通して、私は李さんのことをもっと知ることができました。初めて人のインタビューすることを体験して、楽しかったです。そして、グループメンバーがみんな面白くて、会えてよかったですと思います。

# Psychological Depiction

G16 久保田 悠

## 目次

- 1 はじめに
- 2 インタビューした人物について
  - A エピソード
  - B 選んだ理由
- 3 インタビュー概要
  - D インタビュー内容
  - E インタビューを終えて
- 4 まとめ
- 5 「日本事情Ⅱ」を振り返って

## 1 はじめに

私はこの「日本事情Ⅱ」を受講するにあたって、留学生や他の学部と交流する場だと思っていた。しかし実際はそれだけに留まらず、身近な人とのコミュニケーションをした。それについての内容が以後である。

## 2 インタビューした人物について

### A エピソード

大地とは中学校と高校が一緒であり、野球部として6年間共に過ごしてきた。また、私生活でも交流が多く親友と呼べる仲である。大地はとても頭が良く、高校に入れたのも大学に入れたのも大地の協力のおかげであり、「大地には負けない」という気持ちを持てるような切磋琢磨した仲だ。

大地との印象深いエピソードといえば、高校野球が終わり後輩へ引継ぎ会の際と、3年一人ひとりに今までの思いを述べることができる場があった時のことだった。大地は「3年間悠と同じポジションでいつも背中ばっか見てたけど、野球を続けられたのも悠が誘ってくれて自分を引っ張ってくれたからで、だからこの3年間に後悔はないし、本当にいつも向上心をもって過ごすことができた・・・ありがとう。これからは勉強で悠を引っ張っていきます。」この一言に涙し、またこの人は本当に尊敬できるひとだと感じた。

### B 選んだ理由

恥ずかしくて言えないことってたくさんあると思う。感謝の気持ちを言葉にすることはとても難しいことだし、そのような場も多くない。

だから大地にインタビューしたい。またインタビュー後にはちゃんと感謝の気持ちを言葉にしようと思う。大地は本当にまじめな人だ。というよりもメリハリがあるといったところである。「やるときはしっかりやる、騒ぐときは騒ぐ」・・・自分はメリハリがないので余計に魅かれるのだと思う。

### 3 インタビュー概要

#### D インタビュー内容

大地とは次のような形でインタビューした。  
(ここからは私を「Y」と大地を「D」と表記する)

1月2日 PM11:00 ガストにて

Y「んじゃ例のレポートの話をはじめよ。」

D「はいよ。」

Y「今からいくつかの質問をしていくけど、自分が思った通りの発言をお願い！」

D「まかせろ。」

#### ① 大地のイメージについて

Y「まず大地ってまじめなイメージがあるんだけど、まあたまにはハジけると  
きもあるけどさ。自分ではどう思う？」

D「たしかにね。多分、人によってまじめの基準が違うと思うけど、俺は他の  
人に迷惑かけるのが嫌で、まじめにしていると何か良いことがあるんじゃない  
かって。」

Y「でもそれって自分を出してないってことじゃん。」

D「自分を出すってことは別に仲の良い友達とかの前だけでいいと思う。結構  
まじめキャラも悪くないし。お前とキャラかぶらないしね笑」

たしかに自分を出すって言ってもいつも出すわけじゃない。私だって先生の前では友達という時とはまた違うし、部活動なんて特にそうである。このとき価値観が似ていると思ったが、私は大地ほどメリハリがないし、そこまで真剣には考えていない。そのような点で価値観は似ていても、何か違う気がした。私は別に他人のことなど考えていないし・・・そう思うと大地は周りのことを考えて行動しているのだと感心した。

## ② 高校時代について

- Y「大地という勉強の二文字が浮かぶんだけど、勉強のコツとかあったの？」  
D「効率よくやる！これに限る。毎日コツコツやることで、勉強がわかって楽しくなるし。」  
Y「俺は無理だな・・・。」  
D「久保田は短期集中型だからいいんじゃない。」  
Y「うるせえ笑」  
Y「3年間一緒に野球部に所属していたけど、一番のエピソードは？」  
D「そうだな～皆川のトレーニングをやった後に愚痴言ってたこととか。」  
Y「たしかに！まあ愚痴ってたけどみんな一生懸命やってたよな。」  
D「やっぱ勝ちたい気持ちはみんな一緒なんだよ。苦しかったけど今となってはいい思い出だな。」  
Y「高校生活と大学生活の違いは？」  
D「高校は決められた生活を送る、んで大学生活は自分で決めて自己責任を持って生活しなければいけない。同じ学校だけど全然違う。でも楽しいよ。」

この質問は思い出話みたいだけど、大地がこの後の質問を話しやすくする作戦であったのであまり意味はなかったが、大地自身の素直な考えが感じ取れた。

## ③ 人との関わりについて

- Y「大地にとって友達とは？」  
D「何でも話せて、一緒にいると楽しい！支えにもなるし。」  
Y「聞いてて恥ずかしいな笑」  
D「もう喋らねえぞ。」  
Y「ごめんごめん。んじゃ次・・・私は大地を親友だと思っていますが、大地は私のことをどう思っていますか？またどうみえていますか？」  
D「なぜに敬語？」  
Y「まあいいから！」  
D「親友だと思ってる。久保田は一見だらだらしていつもふざけていてだらしなさそうだけど、意外とやるときはやる男。」  
Y「いやいやまじめだし・・・。」  
D「・・・。」  
Y「よ～し次の質問に移ろう。家族とはどのような存在？」

- D「一緒にいるとうるさくて嫌だけど、離れると風呂に入れって言われない。」  
Y「もっとわかりやすく！」  
D「離れてみるとわかる、やっぱり大切な存在でなんか繋がってる気がする。」  
Y「ふ～ん。」  
Y「話変わるけど、俺は自分に足りないものを持っている人に魅力を感じるんだけど大地はどう思う？」  
D「俺は魅力を感じないかな。自分は自分、他の人は他の人で割り切っているからね。むしろ自分と同じ価値観を持っている人のほうが魅力を感じる。」

「やるときはやる男」と言われて恥ずかしかったけど、やっぱり私が思っていたいつもの大地だった。恥ずかしがらずに素直な気持ちを言葉にできることは本当にすごいと思う。

「家族」のことについての質問で意外と人情的な一面もあることに気づいた。日ごろあまり感じ取れない部分をみることができた。なぜ「家族」について質問したかという、私は大地の家族とはとても仲が良いのだが、大地自身からあまり「家族」の話を聞かない。だからその部分を探っていかうと思った。また「魅力」については全く違う意見だった。でも分からないわけではなく、むしろそのような考えもあるのかと思った。

#### ④ 最後に

- Y「最後にこのインタビューを受けて思ったことは？」  
D「国際交流最高！」  
Y「まじめに・・・。」  
D「あんまりインタビューされたことないから最初は戸惑ったけど、こうやって話すのもいいと思った。」  
Y「これでインタビューは終わり！協力ありがとう。これからもよろしく！本当にありがとう。」  
D「こちらこそありがとう。」

#### E インタビューを終えて

このような形でインタビューは終わった。自分の気持ちを素直に話せることは本当に素晴らしいと思う。しかも無意識にしていたものだからすごい。また

家族に興味なさそうに見せかけて、実は家族想いの一面も見ることができた。

恥ずかしいことを素直に言うところも言葉を濁すところもあり、いまひとつ分からない部分もあったが、それも大地である。そこはそこで大地の良いところだと思う。

自分の考えていたものはたった小一時間で改められる。『話す』というコミュニケーションの大切さを学んだ。

## 5 まとめ

身近な人のことってわかっているようでわからない。逆に自分のことをよく理解していたりする。このインタビューで学んだ。素直に「話す」ことで相手の良さをもっと見つけられるし、自分のこともそうである。また感謝の気持ちを言えて良かった。どんな仲であっても、コミュニケーションをしていく状況で礼儀は大切である。いつもと変わらない時間がいつもと違う充実した時間であった。

## 6 「日本事情Ⅱ」を振り返って

この「日本事情Ⅱを振り返って」学んだことは多い。グループのメンバーに留学生が多かったので、多く異文化に触れることもでき、また日本と外国の文化の違いを感じることもでき、楽しい時間を過ごせた。グループのみんなには本当に感謝している。協力してくれた友達にも感謝している。みなさんありがとう。

日本事情Ⅱで学んだこと、インタビューで感じたことを今後に活かしていきたいと思う。これからもインタビューした友達と交流を深めていきたい。

# 佐藤智史さんのまっすぐさ

G16/千葉 智仁

## 目次

- [1-1]インタビュー相手の紹介
- [1-2]印象的なエピソード
- [1-3]仮説・動機
- [2-1]仮説・インタビュー準備
- [2-2]インタビュー記録
- [3]考察・結論
- [4]授業を振り返って

## [1]

### [1]インタビュー相手の紹介

私がインタビューしたい人は、佐藤智史さんである。

彼とは高校時代に出会った。それから仲良くなるまでにさほど時間は要さなかった。彼とはよく買い物に行ったり、カラオケに行ったりしたが、その度に彼の優しさや行動力に驚かされた。彼は本当に行動力のある人で、何か企画を立てる、となれば当然企画を立てるのは彼だし、準備などにも彼の行動力が随所で発揮された。彼は黒い自転車を愛用していて、いつもそれでどこまでも走っていく姿が印象的だ。とにかく自転車を漕ぐのが異常な程速いので、いつも私は彼を待たせた。187cm と体がとても大きく、力も物凄く強い人である。しかしそれを使って誰かを威圧したり、傷つけたりするようなことは絶対にしなかった。

彼は現在東京の大学に進学し、以前より会う機会は減ってしまったが、今でも電話などお互い相談し合ったりしているし、長期の休みなどお互いに帰省した時などは、一緒に遊びに行ったりしている。

### [2]インタビュー相手の印象的なエピソード

彼に関する印象的なエピソードは、高校 2 年の時、私が部活の大会に出場するために午後から授業を休み準備をしていたところ、いつも私たちが昼食を食べていたベランダから、彼を中心としたみんなの声が聞こえてきて、振り向くと彼が手を振っていた。すると彼がいきなり全校中に聞こえるような声で「頑張れ〜!!!」と叫び始めた。とりあえずその時は恥ずかしいので電話をかけて、お礼を言いつつ止めさせたが、とても嬉しく思った。彼は悲しいことがあると人目もはばからず泣くし、楽しいことがあればとても大きな声で

本当に楽しそうに笑う。落ち込む時は床にめり込むんじゃないかというくらい凹むし、テンションが上がっているときにはウザいくらい幸せそうである。

### [3]仮説・動機

私が彼に魅力を感じているのは、ただ単に友達として一緒にいて楽しい、ということだけでなく、彼が私には無い素直さや豪快さ、強さを持っているからだと思う。彼の豪快さにはとても感心させられるし、自分にもあんな風な行動が出来たら、といつも思う。彼のようにわざと転んで学校の廊下に設置されているロッカーを大破させられたらな、といつも思う。彼のようにベランダから平気な顔で自分の秘密を叫べたらな、といつも思う。彼のように笑いをとるためだったら教科書やノートをムシャムシャ食べられたらなと、なんのためらいもなく自分の持っているものを次々壊せたらな、と思う。どうやったら彼のように、まっすぐ全力で人生を生きていけるのか知りたいので、私は彼にインタビューしたいと思う。

### [2]

#### [1]仮説・インタビュー準備

私は、彼にインタビューするにあたりなぜ私が彼に魅力を感じているのか考えてみた。そして、私が彼に魅力を感じ、惹かれるのは以下の5点のことが根底にあるのではないかと、という仮説を立てた。

- ・まずなにをするにおいても豪快であること。
- ・考え方がとてもまっすぐであること。
- ・彼がとても優しく人情味に溢れていること。
- ・発想が面白く、やることなすこと全てで笑いをとり、場を和ませてくれること。
- ・感情表現が豊かで、感じたことを全身で、全力でまっすぐ表現できること。

私は、この5点が本当に私を惹きつけている要因と為り得ているのか確かめるべく、彼にインタビューをした。

#### [2]インタビューの記録

2009/01/07/23:52

前提：私の質問をA、佐藤智史さんの答えをB、として示すこととする。また、インタビューにあまり関係ないやりとりや冗談、雑談は省略する。

<最近の生活について>

A「最近どう？」

B「まあ、普通。やっと一人暮らしにも慣れてきた感じ。あ、あと彼女できた。」

A「へえ〜良かったじゃん。おめでと。なんかムカつくからこの話題は流すね。」

B「うん。」

A「なんかさ、大学入って一番びっくりしたこととかある？」

B「なんかね、高校とは違ってみんながいつも自由だから、すごい日常生活がハチャメチャ。すごくイカレBOYが多いよ。」

A「まじか。それやばいね。でも楽しそうでいいんじゃない？」

B「うん。でも自由なぶん責任もあるんだけどね。」

A「ああ、まあそれはそうだろうね。そのほかになにか感じたことはある？」

B「ああ、うん。いろいろ感じたよ。例えばさ、当たり前だけど大学に入った理由が色々なんだよ。どうしてもこの大学に入りたくて入った人もいれば、入りたかった大学に入れなくてしかたなくこの大学に入った人もいる。でも、夢を追いかけて〜みたいな熱い人がいないんだ。」

A「まあそれはどの大学でも一緒じゃない？」

B「まあそれはそうなんだけどさ。」

<考察>ここまでは、彼の最近の生活、また大学生活についての質問をした。ここで思ったことは、まず、しゃべり方や接し方が高校時代と何ひとつ変わっていない、ということだ。私からすれば、それは何か安心感を与えてくれるものがあった。彼は大学生活もうまくいっているようだし、私が魅力を感じている人格を大きく変えてしまうような何かを彼の身に起きてなかったことを、嬉しく思った。

<彼の趣味嗜好について>

A「んじゃあ、最近ハマっていることは？」

B「映画鑑賞かな。一番最近観たのは、『ホリディ』、『チェ・ゲバラ』、あとは司馬遼太郎の『坂の上の雲』ってやつだよ。」

A「なんか難しそうだな。」

B「うん。おれも全然意味不明だった。でもアツい何かを感じたよ。」

A「ふ、ふ〜ん……。そ、それは良かったね……？」

B「おう！！」

A「じゃあ、今行きたい所は？」

B「やっぱ宮城の地元、あとプラハ。中国の南京と旅順にも行きたいし、アメリカのニューヨーク、九州沖縄、タイ、インド、タージマハル、サクラダファミリア、マドリッド、それから……」

A「多いな！」

B「(笑)。でもさ、一番は実家かな。なんか今すごくゴタゴタしてて、実家が心配なんだ。」

<考察>ここでは、彼の趣味嗜好、また彼のしたいことが分かる質問をした。ここで思ったことは、彼の映画鑑賞という最近の趣味にとっても驚いた、ということだ。なぜなら彼には高校時代はあまり静かになにか本を読んだり、映画を見たりなど、そういうイメージがあまりなかったからだ。彼の動的なイメージが強すぎて、彼の静的な面があまり見えていなかったのかもしれない。しかし彼は一点集中型の人間なので、そういうものにも集中できるのだろう。ここで新たな彼の一面を見た気がした。

<彼という人について>

A「そうなのか……。じゃあ、そろそろお前について聞くけど、自分ってどんな人だと思う？」

B「自分で言うのもなんだけど、俺は明るい人だと思うよ。でもね、それは今まで悲しいことがいっぱいあったから、その影響もあるんだと思う。それに、熱くなりやすいタイプだよ。でも、それは周りのことが見えなくなる危険性もあるんだけど(笑)。常に全てを楽しく考えたいね。でも俺はポジティブに考えすぎかな。だから結構冷静さに欠けるんだよね。カッコつけたがりだし。人には良く思われたいじゃん？目立ちたがりなのはそういう部分もあるのかな。とにかく人の下に行きたくないんだよ。別に上に立ちたい訳でもないけど。でも人の先頭に立ちたいね。よく言われるのは、常識がないっていうこと。だから、俺のことは好きな人は好きだけど、嫌いな人はとことん嫌いなんだよな。」

A「両極端なんだね。」

B「そう。だから、敵も多いし、味方も多いんだよ。でも実は俺、人づきあいが苦手なんだよ(笑)」

A「ウソつけ。」

B「いやほんとほんと。そう見せてないだけで。だから結構サバサバしてる。」

A「え～？お前サバサバしてる？」

B「してるしてる。サバサバしつつ熱い、みたいな。」

A「意味わからん(笑)」

B「そういえばさ、あれ覚えてる？高校ん時ベランダでいろんな話したじゃん。悩み相談したり、励ましたり励まされたり。あの頃が一番印象に残ってる時期だな。」

A「ああ(笑)。あったあった。そういえばお前ミルキーウェイで一目ぼれした店員に貰ったレシートにすぐメアド書いて渡してたよな(笑)。」

B「ああ、普通にメル友になれてびっくりした。まじウケたけど。あとは、まだ一人暮らし始めたてのころさ、一緒に夕飯の献立考えたりしたよね。」

A「ああ、してたね。んじゃそろそろ最後の質問だけど、今何してるの？」

B「新宿のレストランでバイトしてるよ。キッチンで料理作ってる。」

A「へえ～。なにかバイトで得たことは？」

B「うんとね、やっぱりお客さんの満足とか、お客さんが楽しめるかどうかは店の雰囲気なんだよ。店員の笑顔とか含めて。こっちが明るくないと相手も明るくならない、っていうことかな。だから、楽しんで欲しかったらまずこっちが楽しまないと、っていうこと。すごく忙しいけど、忙しいの好きだし、楽しいから充実してる。」

A「そっか。充実していてなによりだよ。いろいろ教えてくれてありがとう。」

B「おう！お互い頑張ろうな。んじゃ。」

A「じゃ、また。」

<考察>ここでは、彼自身の自分に対するイメージについて質問をした。ここで感じたのは、やはり彼も自分がかなりまっすぐな生き方をしているということは自覚しているんだ、ということだ。しかし、意外と彼が自分のことについてキチンと考え、分析できていることに驚いた。もしかしたら彼は自分がまっすぐ生きているということを知っていて、敢えてそういう生き方を選んでいるのでは、と思った。

### [3]インタビュー考察

彼にインタビューして思ったことは、やはり彼に聞いた『自分ってどんな人？』という質問にもあったように、彼は自他共に認めるまっすぐさを持っているんだな、ということだ。それは彼も自覚しているようで、彼の話からもそういう印象を受けた。そして、彼は意外と自分を客観視できるんだな、と思った。私はもっと周りを見て、とかそういうことをしない人だと思っていたので、新しい発見だった。それから、よく自分のことを分析できているな、と思った。彼は私の想像よりもはるかにいろんなことを考えていて、私の仮説通り、というわけではなさそうだ、とも感じたし、でもまっすぐで豪快だ、という部分は当たっているのかな、とも感じた。彼の優しさについては、彼のこれまでの経験や過去が影響しているんだな、と思った。私の考えていた彼は、動的なものばかりを持っていて、行動力に優れ、考えなしでどこまでもつっ走っていける人なのだと思っていた。しかし彼は私の思うほど考えなしではなく、キチンと自分の考えを持っていて、その信念に背くことなく、ちゃんと考えて行動しているのだということを見つけた。私は普段、物事を深く考えすぎてうまく行動できず、後悔してしまうことが多々ある。そして、そのたびに私にはない彼のそういう部分の素晴らしさを思い知らされる。だから私は、彼のまっすぐさに惹かれているのではないだろうか。私自身がそういう生き方をしたくて、そういう生き方ができる彼に魅力を感じ、彼から学び取ろうとしているのではないだろうか。今回の授業で、私はそういう生き方をしたい。だからまっすぐな彼に魅力を感じているのだろうということを学ぶことができた。そして今回新たに発見した部分もまた、彼の新しい魅力の一つになりそうだ、と感じた。

#### [4]授業を振り返って

私は今回この授業を受講して、他人に対する自分の考えから、自分が普段どういうことを考えているのか、また自分がどういう人間なのかを見つめなおすことが出来た。普段ではそういったことはしないし、なかなか無い経験だったのでとても新鮮に感じた。

誰かについて深く考え、そしてその誰かに魅力を感じる自分はどういう人なのか。たくさん疑問や感想、思考の中で見えてきたインタビュー相手の人物像はとても大切にしたいものとなったし、それを通して知った自分の人物像というのも大切にすべきだし、忘れずに鏡のようなものとして持っていきたいと思った。

内容

1. インタビューの相手について
  - 1-1 インタビュー相手の紹介
  - 1-2 出会い
  - 1-3 なぜ彼女にインタビューしたい
  - 1-4 面白いのエピソード
  - 1-5 魅力を感じるどころ
2. インタビュー結果
3. インタビューについての説明
4. インタビュー終わったの感想
5. 結論
6. 「日本事情Ⅱ」を振り返り

インタビューの相手について

1-1 インタビュー相手の紹介

私がインタビューの人は鄧彩虹、彼女は私のははです。彩虹の意味は虹です。母今は45歳です。母はうちで一番せが低いのひとです。母は主婦です、ときどき父の仕事を手伝うから、父の仕事も家の事もしなければならぬ、とても忙しいです、母は能力があると思います。暇とき、母はいつも韓国の番組をみたり、隣とマージャンしたりします。最近、小さい犬を飼います、その犬の名前は寶貝、以前、母は鳥を飼うことがある、その鳥の名前も寶貝です、母はその名前がすきとおもいます。母の心は若いですから、顔も若いそうです、母と一緒に買い物へいくとき、母の友達はいつも「彼方たちは姉妹そうですね」といいます、私の家族も「娘では雅婷は母に一番似ています」といいます。

もちろん、母と喧嘩することがあります、でも全部も小さいことです、久しぶりにけんかするから、ほとんど忘れました、覚えることは毎回母と喧嘩したら、すぐ仲良くなる、多分一日です。母は煩いを感じることもある、でも今はおおきくなるうちに、だんだん母のことがわかります。母と喧嘩することも煩いをかんじることもますますなくなります。

## 1-2 出会い

たぶん二十一年前、あの夜、彼女が私を生みました、その時は私たちの出会いの日です、でもむかしのことですから、私はぜんぜん覚えなない。彼女は私のお母さんです。^^

## 1-3 なぜ彼女にインタビューしたい

実は、初めにはわたしの仲が良い友達をインタビューしたいです。でも私の友達も交換留学生ですから、今アメリカでいます。時差は十二時間です、あまり無理な上に、私は母によく連絡する、そして母にインタビュー決めました。母は私にとって、何よりも大切な人です。母にもっと了解したいですから、母にインタビューする。私の母は他の人の母と比べてはとても違うとおもいます。母と何でも話しことができる、友達のことや、彼氏のことや話す。母は面白くて活発な人ですが、ときどきちょっとわかまます。母はいつもこどもように私に甘える 母と私はとても仲がよい、私たちは友達そうです。楽しいときでも、悲しいでも、なんでも母に話します。家族は六人でいます、私はうちの次女です、姉、妹と弟がいます、でも母が一番かわいがるのは私とおもいます。私の母は世界で一番可愛くて面白いの母と思って、私は将来あんなすばらしいの母になりたいです。

## 3. エピソード：

私はここに来るまえの一日の夜、交換留学生として、アメリカへきたの友達からの電話がかかってもらった、彼女はビービーという、あの日は台風があったから、彼女は心配した、そのときはとっても嬉しかった、母は外国からの電話で話したいとおもいます、それから、私は母に電話をあげて、母に「アメリカからの電話ですよ」とはなす、そして母はビービーさんに「How are you」言った、ビービーさんは母に中国語で『お婆さんはかわいいですね』いった、後、母は電話を返す、ビービーさんは「あなたの母は可愛くて面白いね」言った。母は英語で「How are you」できるだけ、それは母の可愛いところです、自身があります、私の友たちも私の母はおもしろいと思うそうです。

## 1-4 お母さんの魅力

私はお母さんに魅力を感じるところは、「明るくて活発の個性」を持っているの生活主張です、どんな事を臨んでもいいの方を考えます。いつもきがはれるみたいです。

## 2. インタビュー結果

インタビューの相手：お母さん

日時：平成20年12月9日(火)

場所：テレビ電話で

お母さん：最近なにをしますか？

私：今は日本事情Ⅱの授業の宿題をしている。

お母さん：その宿題はなにをしますか？

私：自分のインタビューしたい人をインタビューする、まずその人は自分にとってはどんな人を書きます、わたしはインタビューしたいの人はお母さんですよ。

お母さん：本当に、どうして母にインタビューしたいですか？

私：わたしはお母さんによく連絡するの人ですから・・・

お母さん：えー、そうですが・・・じゃ母についてなにを書くつもりですか？

私：知りたいですか？じゃ、怒らない保証してもらってもいいですか？

お母さん：どうして？ははの悪いことを書きましたか？

私：そんなことありませんよ！ ^ \_\_\_\_\_ ^

お母さん：はい。早く教えてください。

私：お母さんは私にとって、何よりも大切な人です。お母さんは面白くて活発な人ですが、ときどきちょっとわかまます。お母さんはいつもこどもように私に甘える。お母さんと私はとても仲がよい、私たちは友達そうです。楽しいときでも、悲しいときでも、なんでもお母さんに話します。だいたいそうかきました。

お母さん：うそ、信じられない。

私：本当ですよ、先生に聞いてもいいですよ。

お母さん：はい、わかった、しんじるよ。

私：じゃ、今インタビューをしましょう、インタビューに関係があるの問題が少しある、まず、わたしのテーマメモ2の内容について、不同意なことがありますか？

お母さん：まあ、だいたい同意です、でも母は自分はわかままじゃないと思いますよ。どうして母ことはわかままとおもいますか？

私：おかあさんはわかままのことがいろいろありますよ、例えば、毎回お母さんは隣の叔母さんといっしょにマージャンするとき、私と姉いつも「そんな遅くまでしないでください、早く帰るよ。」といます。お母さんもいつも承諾する、でもお母さんは毎回も夜が明けたとき帰る、お酒を飲むときも同じ。

お母さん：そうですか、でも久しぶりマージャンしません、母はぜんぜん覚えませんか・・・

私：ほら、ほら、お母さんはわかまます、次の問題、今も韓国のドラマをみますか？ドラマの名前は何か？

お母さん：今は香港のドラマをみます、そのドラマの名前は「珠光宝気」今はとても人気があるのドラマですよ。

私：はい、じゃ、つぎの問題は私はお母さんと喧嘩することがあります、どうして喧嘩する覚えますか？

お母さん：忘れましてよ、そんな悪いことは覚えないうかいいと思います。

私：うーん、私はそう思います、次の問題、家族は「娘では雅婷は母に一番似ています」といいます、お母さんもそう思いますか、何処にしていますか？

お母さん：はい、母もそう思います、顔も個性もにっています、母と同じ可愛いね。

私：私のテーマメモ2で面白いエピソードを書きました、そのエピソード覚えますか？ほかの面白いエピソードをおぼえますか？

お母さん：ええ、おぼえます、あなたとお姉さんのおもしろいエピソードいですか？

私：いいよ、それは何？

お母さん：ある日、あなたはお姉さんと一緒にオートバイクを乗って近いのコンビニエンスストアへ行きます、でも二人もオートバイクを忘れた、そのまま歩いて帰る…、面白いね、

私：あ、そうですね、私のそばは面白いのことがいっぱいありますね。

お母さん：そうですね、あなたは忘れっぽいタイプなので、いつもあれこれわすれてしまった、周りの人に幸せを与える事ができます。

私：最近、みんなも元気ですか？

お母さん：ええ、最近お父さんは調子がちょっと…

私：えっ、大丈夫ですか？

お母さん：じびょうです、ちゃんと休むなら、たぶん大丈夫から。

私：じゃ、今お父さんの仕事は全部お母さんにするでしょう？

お母さん：え、そうです。

わたし：たいへんですね。おかあさんもつかれてからだをこわさないよ！

おかあさん：はい、はい。

私：じゃ、お母さんも同じ、娘では私がお母さんに一番にしていますものですから。じゃ、今回のインタビューはここまで終わります、もし他の問題があれば、電話を掛けますよ、健康に気をつけてね。

インタビュー終わり

### 3. インタビューについての説明

◎「忘れっぽいタイプだと、どうして周りの人に幸せを与えることができますか？」  
私は忘れっぽいからです、おもしろいことはよく発生するです、例えば、インタビューの中に話及ぶの「私はお姉さんと一緒にオートバイクを乗って近いのコンビニエンスストアへ行きます、でも二人もオートバイクを忘れた、そのまま歩いて帰る…」周りの人が聞きましたら、みんなも笑います、母はいつも「私はよく人を笑わせる」と言います、だから、私は周りの人に幸せを与えることができますと言ったと思います。

#### 4. インタビュー終わったの感想

今回のインタビューした後、母にはもっと了解しました、私は母に似ていますから、母は本当に私の思ったとおりです。

#### 5. 結論

将来、私のお母さんみたいな母親になりたいと思います。

私の理想の母親像は：1. 娘と娘のしんゆうと友達になる

2. 娘の事、学業、恋、友達をを問わずちゃんと聞きましたら、客観的の意見をあける。

3. どうな仕事をして、ぜひ娘と一緒に外に遊びたり、ショッピングしたりします。

私はあんな母親がすきですから、かんな母親になりたいです。

#### 6. 「日本事情Ⅱ」を振り返し

この授業のレポートは大変だったと思いますが、とっても面白いの授業とおもいます。毎回の授業も必ず日本人と話し合いも緊張ですが、16組の皆は優しいです、私は初めて自分であんなに多い字のレポートを日本語で書きました、自分はすごいとおもいます。